

第 4 期知床半島エゾシカ管理計画 遺産地域について

1. 数値目標（エゾシカ生息密度頭数）に係る昨年度 WG の委員意見

論点	意見（発言者）
“5 頭/km ² ”という数値について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知床の生態系の生産性が何によって規定されているのかということは今一度考える必要があるのではないか。 ・ シカの生息密度を低密度で維持することで本当によいのかということを頭の片隅に置いておく必要があるのではないか。（以上、日浦委員） ・ 5 頭/km²という数字は、これ以上高いのは絶対に不適というレベルだという認識だ。（松田委員） ・ 広葉樹で森林再生を行うなら、5 頭/km²というのはアッパーリミットだと考えている。（梶委員）
知床岬地区の数値目標（5～10 頭/km ² ）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三期の目標からこのように変えたように思う。（宇野座長） ・ 次期では目標をより明確に設定していただきたい。（伊吾田委員）

※令和 2 年度第 2 回エゾシカ・ヒグマワーキンググループ（12 月開催）議事録より抜粋。

2. 現行計画における各地区の数値目標ならびにこれまでの取組状況

地区名 (数値目標)	取組期間	これまでの取組状況
知床岬地区 (5～10 頭/km ²)	平成 19(2007)年度より取組開始。密度操作実験も含めて 15 年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計 482 頭（内メス成獣 221 頭）のエゾシカを捕獲。 ※「知床半島エゾシカ管理計画」策定（平成 22(2010)年度）以降、令和 2(2020)年度まで。以下同じ。 ・ この間、数値目標を達成したことはなく、おおむね 20 頭/km²前後で推移。平成 29(2017)年度に実施した航空センサス調査の観測値 12.50 頭/km²が最小値。
ルサ-相泊地区 (5 頭/km ²)	平成 21(2009)年度より取組開始。13 年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計 999 頭（内メス成獣 485 頭）のエゾシカを捕獲。 ・ 平成 26(2014)年度に実施した航空センサス調査において観測値 3.41 頭/km²を確認。以後、おおむね 5 頭/km²前後で推移。
幌別-岩尾別地区 (5 頭/km ²)	平成 23(2011)年度より取組開始。11 年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計 1,820 頭（内メス成獣 951 頭）のエゾシカを捕獲。 ・ 平成 28(2016)年度に実施した航空センサス調査において観測値 4.60 頭/km²を確認。以後、おおむね 5 頭/km²以下で推移。

3. 次期計画の数値目標設定にあたっての留意事項（知床岬地区）

(1) 『知床岬地区は、他の地区に比べて対象面積が狭い』

【対象面積】

- ・ 知床岬地区 : 3.2 km²
- ・ ルサ-相泊地区 : 17.8 km²（知床岬地区の約 5.6 倍）
- ・ 幌別-岩尾別地区 : 29.1 km²（知床岬地区の約 9.1 倍）

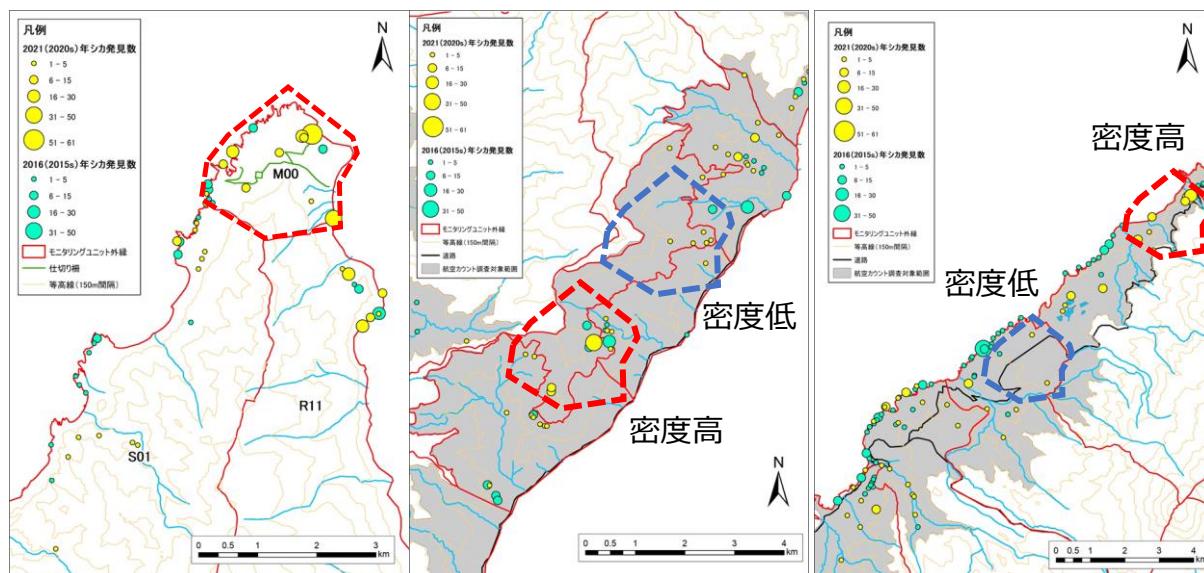


図1 知床岬地区の調査対象範囲と他2地区の比較状況

(2) 『知床岬地区は、捕獲取組に対して制約が多い』

①これまでの取組状況

作業期間	移動手段（乗員数）	作業日数	捕獲手法
2～3月(流水期)	ヘリ（4人）	計4～5日	銃猟+わな猟
5月前後(残雪期)	船舶（10人）	計2～3日	銃猟

②これまでに行ってきた捕獲手法

銃器による手法：巻狩、忍び猟、待ち伏せ式狙撃

わなによる手法：くくりわな、仕切柵を利用した囲いわな

③これまでの最多動員人数と最多捕獲頭数（捕獲一日あたり）

平成22(2010)年1月20日

作業人数：29人（内、射手21人）

捕獲頭数：57頭（内、メス成獣42頭）

気象海象、移動手段などの制約がある中、理論上最大限の資源（人、資機材、お金など）を投入した場合の捕獲見込み頭数（単年度あたり）

「現状では多く見積もっても70頭が限界」（知床財団 捕獲実務担当見立て）

表 1. 知床岬地区における時期別移動手段・捕獲手法の概要

移動手段 捕獲手法	積雪期 (12~3月)	無雪期 (4~11月)
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> ●流水期前(12月)は海路が利用可能だが、天候が悪く、海況が安定しない。 ●流水期(1~3月)は海路が利用できないため、知床岬地区までの移動には空路(航空ヘリを利用)に限定され、コストが高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海路を利用できるため、移動にかかるコストは比較的低い。また、4~8月にかけては海況も比較的安定している。
わな猟 ・くくりわな ・囲いわな	<ul style="list-style-type: none"> ●平成30年度よりわなによる捕獲を実施。令和元年度において、期間が短く餌による誘引が十分に行えない等の課題も明らかになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わな捕獲後のエゾシカは、ヒグマを誘引する可能性が高く、従事者の安全確保が困難など課題を有する。
銃 猟	<ul style="list-style-type: none"> ●従来(平成19年~平成28年度)行ってきた“巻狩り”については、平成29年度以降、エゾシカが仕切柵の配置を学習し、追い込みが困難になり、捕獲実績があげづらくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマ活動期の銃猟については、これまでも実績がある。 ・令和2年度春期捕獲において、2回実施14頭(内メス成獣3頭)を捕獲した。

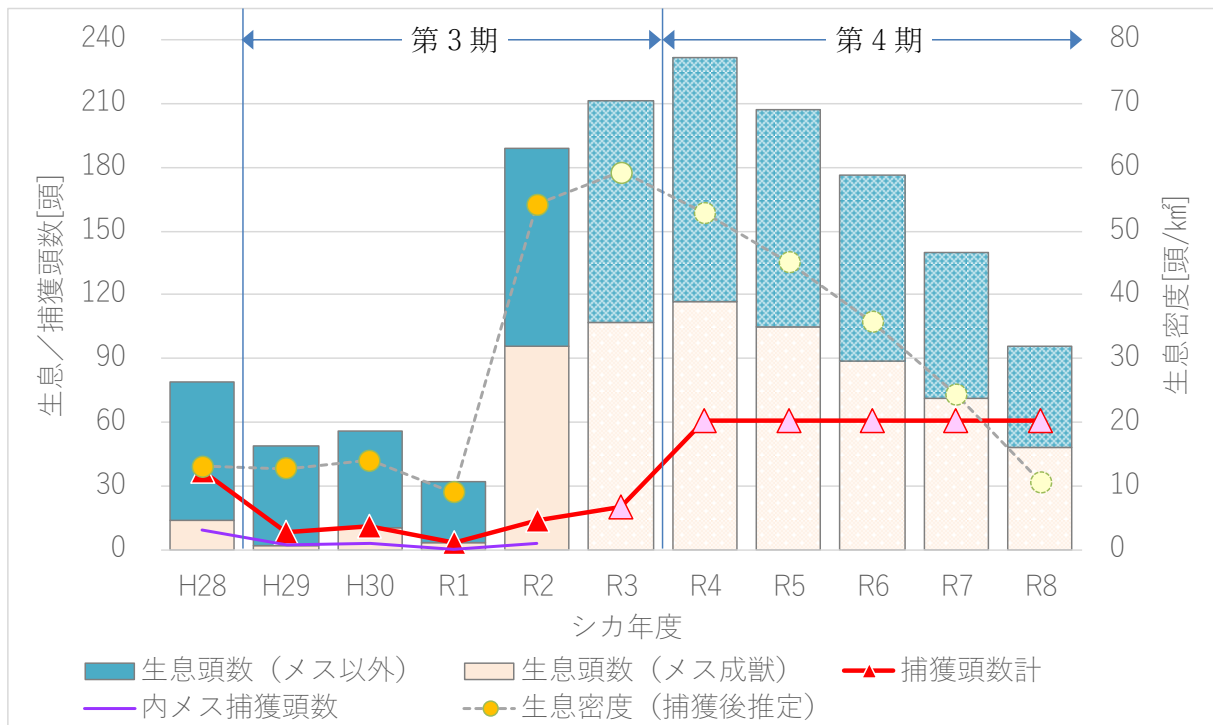


図 2.一定の捕獲圧をかけ続けた場合の知床岬地区エゾシカ生息頭数の推移予測 (簡易推定)

【推定条件】

生息頭数：R2 年度以前は航空センサス調査 (知床岬地区 (M00) 詳細調査) 実測値

メス生息頭数：R2 年度以前は実測値、R3 年度以降は R2 年度の比率を基に推定

エゾシカの自然増加率：一年当たり群れ母数の 21%で推定

4. 次期計画のエゾシカ個体数調整取組の方向性（知床岬地区）

(1)これまでの状況より、次期計画では先ず「10頭/km²」の達成を目標とする。

(2)捕獲可能見込みより、単年度で数値目標の達成はきわめて困難であることから、計画期間中の目標達成を目指す。

(3)上記の目標達成に向けた捕獲取組の方針は以下のとおり。

①植生の生育時期に継続的に捕獲圧をかけることで、

- ・現に植生に被害を与えていると考えられるエゾシカ個体の頭数削減を図る。
- ・この時期の知床岬地区への忌避感を与えることによりエゾシカを遠ざけ、植生の保護と回復を図る。

（具体例：春～夏にかけての捕獲取組強化）

②直近に実行可能かつ他地区で成果を出している方法を検討し、安定的な捕獲手法を選択することで、中長期的に低密度状態の維持を図る。

（具体例：ハイシートを用いた待ち伏せ式狙撃 など）

③知床岬地区において②で選択した捕獲手法で必要とされる各種整備を行う。

（具体例：ハイシート等の構造物、資機材及び捕獲したエゾシカの移動等作業に必要な作業道（簡易的）の整備、小型運搬機械の導入 など）

(4)計画年度途中の数値目標達成状況については、第3期に続き、航空センサス調査によるエゾシカ生息状況（個体数推定）及び植生調査等のモニタリング結果も踏まえて評価を行い、捕獲圧を高める必要性等について適宜判断を行う。